MH-DEVICE

BetaHub

MH-Beta2 で ほかの MH-Device 製品を操作する PC アプリ



BetaHub は、フットペダル MH-Beta2 の足操作を、
MH-Zeta や MH-Epsilon2 への操作に変換する PC 用アプリです。

本書では、入手から設定、日々の使い方までを説明します。
ご使用の前に「できること」のページをお読みください。

2026年9月版 ／ BetaHub v2 対応

MH-Device
https://mh-device.com/

BetaHub でできること

足で踏んだスイッチが、PC を経由して別の製品への操作に変わります

・MH-Beta2 のスイッチに Hub1 ～ Hub10 を割り当てると、踏むたびに PC へ合図が送られます。
・BetaHub はその合図を受け取り、あらかじめ決めておいた操作へ変換して、
  MH-Zeta や MH-Epsilon2 へ送ります。
・両手をキーボードとマウスに置いたまま、別の製品の状態を変えられます。



MH-Beta2
足でスイッチを踏む

USB
→

BetaHub

PC 用アプリ
受け取って変換する

USB
→



MH-Zeta / MH-Epsilon2
設定が切り替わる

踏んだスイッチが、PC の BetaHub を通じて相手の製品への操作に変わります。

項目	内容
受信元	MH-Beta2（フットペダル）
送信先	MH-Zeta ／ MH-Epsilon2。2台まで同時に指定できます
Hub の数	10個（Hub1 ～ Hub10）
対応OS	Windows ／ macOS
常駐	タスクトレイ（macOS はメニューバー）に常駐します

⚠ **BetaHub を起動していないときは、MH-Beta2 の Hub キーを踏んでも相手の製品は反応しません。**
常駐させたままにしておくか、「起動時に自動接続」を使ってください。

準備する

必要なものと、使いはじめるまでの流れ

必要なもの	内容
MH-Beta2	受信元。PC に USB で接続します
MH-Zeta または MH-Epsilon2	送信先。PC に USB で接続します
PC	Windows または macOS。USB ポートが接続台数ぶん必要です
BetaHub	公式サイトの「ダウンロード」から入手します

使いはじめるまで

・ダウンロードした zip を解凍し、任意の場所に置いてください。インストール作業はありません。
フォルダごと移動してもかまいませんが、中のファイルは一緒に移動してください。
・MH-Beta2 と送信先の製品を、USB ハブを介さず PC 本体のポートへ直接つなぎます。
・BetaHub（実行ファイル）を起動します。

▶ 先に MH-Device 設定ツールを使って、MH-Beta2 のスイッチへ Hub1 ～ Hub10 を割り当てておきます。
工場出荷時は Hub が割り当てられていないため（スイッチ 1 ～ 9 に数字の 1 ～ 9 が入っています）、
この作業は必ず必要です。やり方は「MH-Beta2 側の設定」のページをご覧ください。

⚠ 設定ツールで MH-Beta2 を開くときは、BetaHub のサービスを停止してください。

画面の見方

起動した直後の画面です。上から順に設定していきます



起動直後（まだ何も設定していない状態）

場所	内容
右上の丸印	サービスの状態。灰色＝停止／緑＝稼働中
サービス開始 / 停止	変換を始める・止めるボタン
起動時に自動接続	次回から、起動と同時にサービスを開始します
ポート設定	受信元（MH-Beta）と送信先の COM ポートを選びます
ポート更新	製品をつなぎ直したときに、ポートの一覧を取り直します
Hub設定	Hub1 ～ Hub10 に、送信先で行う操作を割り当てます

▶ 送信先の製品をつないでいないあいだ、Hub設定には「デバイスが接続されていません」と表示されます。

ポートを設定する

選ぶだけで、その製品かどうかを BetaHub が自動で確かめます



両方の確認が取れた状態（緑色で「認証済み」と出ます）

手順

・「MH-Beta」の欄で、MH-Beta2 をつないだ COM ポートを選びます。
・「送信先デバイス1」の欄で、操作したい製品（MH-Zeta か MH-Epsilon2）の COM ポートを選びます。
・選ぶと BetaHub がそのポートへ問い合わせ、製品名を確かめます。
　確認が取れると緑色で「認証済み: MH-ZETA」のように表示されます。

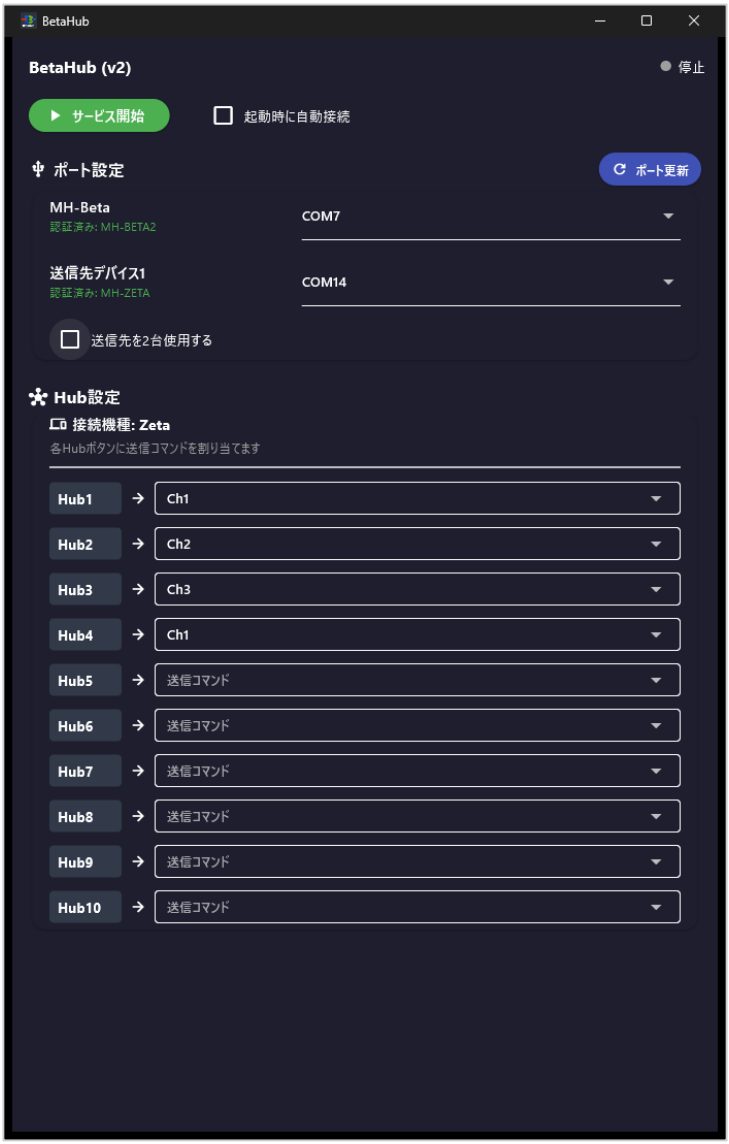
表示	意味
認証済み: MH-○○○（緑）	その製品だと確認できました。このまま進めます
未認証（赤）	MH-Device 製品ではないか、応答がありません。別のポートを選び直します
選択なし	いちばん上の「選択なし」を選ぶと、そのポートの設定を消せます

▶ どの COM 番号がどの製品かは、選んでみれば製品名が出るので、順に試せば分かります。
製品をつなぎ直したときは「ポート更新」を押してから選び直してください。

⚠ 受信元と送信先に同じポートを選ばないでください。MH-Beta2 は送信先にはなりません。

Hub に操作を割り当てる

Hub1 ～ Hub10 のそれぞれに、送信先で行う操作を1つ選びます



Hub1 ～ Hub3 にチャンネル切替を割り当てた例

・「接続機種」に、いま送信先になっている製品名が出ます。ここは自動で決まります。
・各行の右側の「送信コマンド」を押すと、その製品で使える操作の一覧が出ます。
・選ぶとその場で保存されます。保存ボタンはありません。

▶ 割り当てるのは、MH-Beta2 側で Hub を割り当てたスイッチのぶんだけで構いません。
たとえば3つのスイッチに Hub1 / Hub2 / Hub3 を割り当てたなら、その3行だけ決めれば足ります。

送れる操作の一覧

送信先の製品によって、選べる操作が変わります



送信コマンドの一覧（MH-Zeta の場合）

操作	MH-Zeta	MH-Epsilon2
チャンネルの指定	Ch1 ～ Ch10	Ch1 ～ Ch10
チャンネルの送り戻し	Ch+ / Ch−	Ch+ / Ch−
踏んでいる間だけ別チャンネル	Ch1-Alt ～ Ch10-Alt	Ch1-Alt ～ Ch10-Alt
ホイールの段の切り替え	Wheel2 / Wheel3	Wheel2 / Wheel3
操作モードの切り替え	Mode-Game / Mode-Work / Mode-Mouse / Mode-Pad	—
トラックボールのモード	—	MouseMode / ScrollMode / KeyMode（各 -Alt 付き）
スティックの割り当て	L-Stick / R-Stick / LandR-Stick	—
MacOS・iOSモード	Mode-iOS	Mode-iOS
Sleep	Sleep	Sleep

▶ **末尾に -Alt が付くものは、踏んでいる間だけその状態になり、足を離すと元へ戻ります。**
MH-Epsilon2 の ScrollMode-Alt は「踏んでいる間だけスクロール」になり、とくに便利です。

MH-Beta2 側の設定

どのスイッチを BetaHub に使うかは、MH-Device 設定ツールで決めます

手順

・MH-Device 設定ツールを起動し、MH-Beta2 の「Setting」を開きます。
・割り当てを変えたいスイッチのボタンを押して、「キーの選択」画面を開きます。
・「テンキー, マウス & デバイス制御」タブを選び、下半分の Hub1 ～ Hub10 から選びます。
・OK を押すと本体へ書き込まれます。

	内容
工場出荷時	Hub は割り当てられていません。スイッチ 1 ～ 9 に数字の 1 ～ 9 が入っています
Hub に変えるスイッチ	9個のうち、足で切り替えに使いたいスイッチを選んで Hub1 ～ Hub10 に変更します
Hub を使わないスイッチ	ほかのキーやマクロを割り当てて、そのままお使いいただけます

⚠ 設定ツールで MH-Beta2 を開くときは、BetaHub のサービスを停止してください。
サービスが動いていると、設定ツールから MH-Beta2 を開けないことがあります。

▶ Hub1 ～ Hub10 の番号は、BetaHub の画面に並ぶ Hub1 ～ Hub10 とそのまま対応します。
スイッチ5に Hub7 を割り当てたなら、BetaHub の Hub7 の行を設定してください。

サービスを開始する

「サービス開始」を押している間だけ、足操作が相手の製品へ届きます



稼働中の画面（右上が緑、ボタンが「サービス停止」に変わります）

状態	表示	このときの動作
停止	灰色の丸＋「停止」	踏んでも相手の製品は反応しません
稼働中	緑の丸＋「稼働中」	踏むと相手の製品の設定が切り替わります

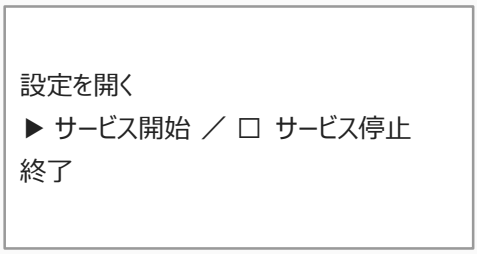
・「起動時に自動接続」にチェックを入れておくと、次回から起動と同時に稼働します。
　毎日使う場合はこちらが便利です。
・PC の起動時に BetaHub 自体を立ち上げたい場合は、Windows のスタートアップに
　BetaHub のショートカットを置いてください。

⚠ 稼働中は、画面に「デバイスのキー設定はサービス停止状態で実施してください」と出ます。
設定ツールで製品の設定を変えるときは、先に「サービス停止」を押してください。

常駐させて使う

ウィンドウを閉じても終了しません。タスクトレイに残ります

・ウィンドウ右上の × を押すと、ウィンドウが隠れるだけで、変換は動いたままです。
・タスクトレイ（macOS はメニューバー）のアイコンから、いつでも呼び戻せます。



トレイアイコンを右クリックすると出るメニュー

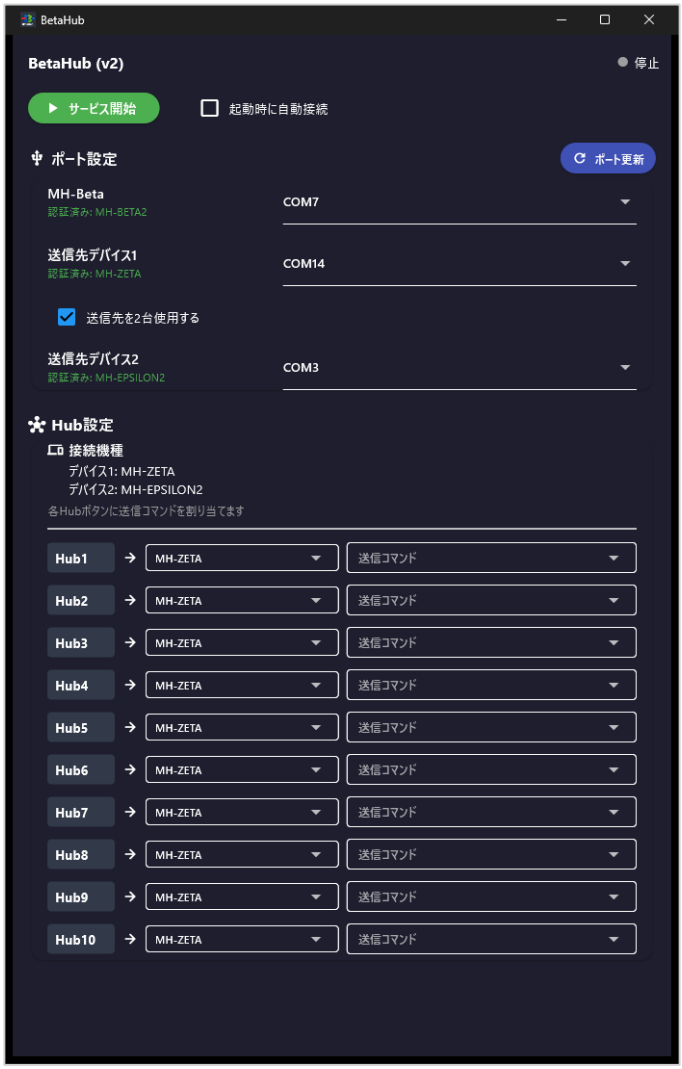
・アイコンをクリック（またはダブルクリック）すると設定画面が開きます
・「終了」を選ぶまで BetaHub は終了しません
・アイコンにカーソルを合わせると、稼働中か停止中かが出ます

▶ BetaHub はタスクバーには表示されません。見当たらないときはタスクトレイをご確認ください。
Windows ではトレイアイコンが隠れていることがあります。「＾」を押して一覧を開いてください。

⚠ PC を再起動したあとは、BetaHub を起動し直すまで足操作は届きません。

送信先を2台にする

MH-Zeta と MH-Epsilon2 を、1台の MH-Beta2 から使い分けられます



2台モード。Hub ごとに、どちらへ送るかを選べます

・「送信先を2台使用する」にチェックを入れると、「送信先デバイス2」の欄が増えます。
・2台目の COM ポートを選ぶと、Hub の各行に送信先を選ぶ欄が追加されます。
・行ごとに、デバイス1へ送るかデバイス2へ送るかを選べます。

⚠ 送信コマンドの一覧は、送信先デバイス1 の製品のものが表示されます。
そのため、デバイス2 へ送る行では「両方の製品にある操作」（チャンネル・ホイールの段・MacOS・iOSモード・Sleep）をお選びください。
デバイス2 側だけにある操作（MH-Epsilon2 の ScrollMode など）を使いたいときは、その製品を「送信先デバイス1」に設定してください。

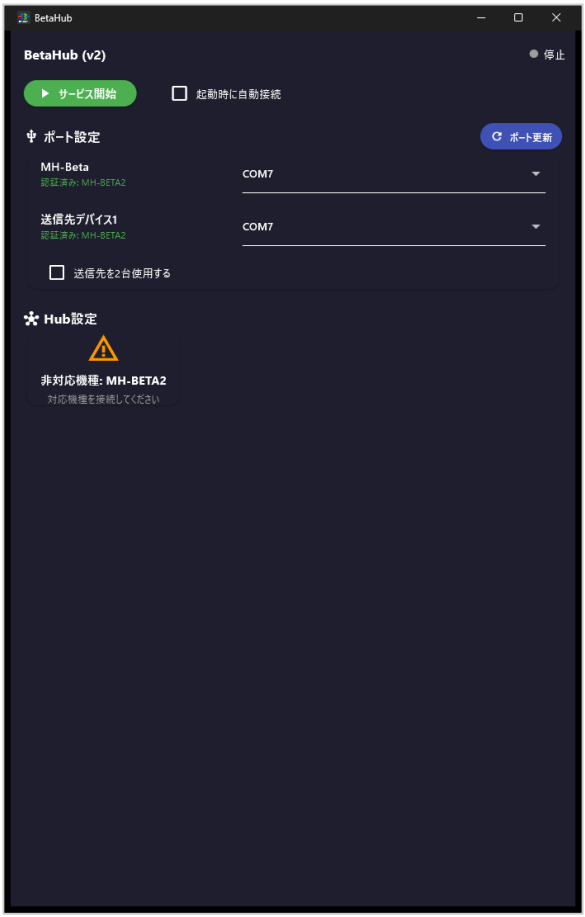
困ったときは

症状	確認していただきたいこと
踏んでも相手の製品が反応しない	・BetaHub が「稼働中」（右上が緑）になっているか確認してください ・MH-Beta2 のそのスイッチに Hub が割り当ててあるか、設定ツールで確認してください ・BetaHub のその Hub の行に、送信コマンドが選ばれているか確認してください
ポートの一覧に製品が出ない	・USB ケーブルを挿し直し、「ポート更新」を押してください ・USB ハブを介さず、PC 本体のポートへ直接つないでください ・MH-Zeta は USB ドライバのインストールが必要です。製品のマニュアルをご覧ください
選んでも「未認証」になる	・MH-Device 製品以外のポートです。別の COM 番号を選び直してください ・設定ツールなど、ほかのソフトがその製品を開いていないか確認してください
「非対応機種」と表示される	・送信先にできるのは MH-Zeta と MH-Epsilon2 です ・MH-Beta2 自身は送信先にはなりません
設定ツールから製品を開けない	・BetaHub の「サービス停止」を押してから、設定ツールを操作してください
ウィンドウが見当たらない	・タスクトレイのアイコンをクリックすると開きます（タスクバーには出ません）

▶ **お問い合わせ： mh.device.info@gmail.com**
BetaHub のバージョン（画面左上に表示）と、お使いの製品名をあわせてお知らせください。

付録　送信先にできる製品

送信先にできるのは MH-Zeta と MH-Epsilon2 です



対応していない製品を選んだときの表示

製品	受信元	送信先
MH-Beta2	○	×
MH-Zeta	×	○
MH-Epsilon2	×	○
そのほかの MH-Device 製品	×	×（今後の対応をご期待ください）

▶ **送信先に選んだ製品が対応していない場合、Hub設定は表示されず、**
「非対応機種」と出ます。対応製品を選び直してください。